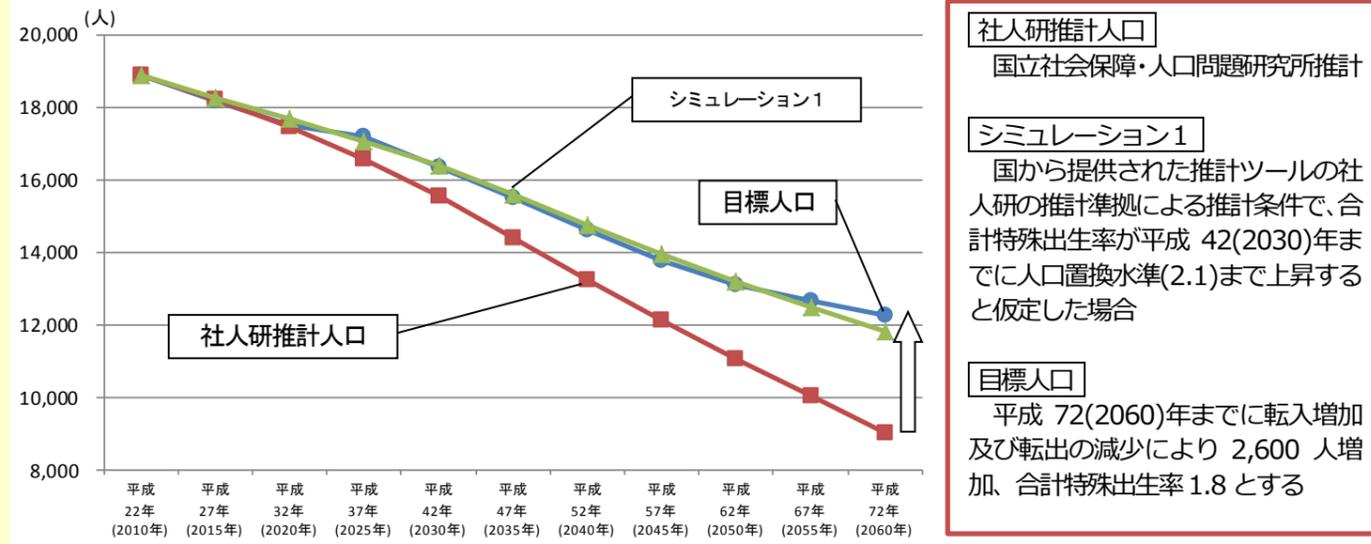


嵐山町人口ビジョン及び嵐山町総合戦略<概要版>

策定の経緯 ～何故今策定するのでしょうか～

日本の人口は、2008年（H20年）をピークに急速に減少してきています。嵐山町では平成12（2000）年をピークに人口減少が始まっており、人口減少問題は喫緊の課題となっています。現状把握を適切に行い、効果的で効率的な対策を行うべく、嵐山町においても国が策定した「長期ビジョン」「総合戦略」を勘案しつつ、まちづくりの大前提となる将来の人口動向を分析し将来展望を示す「嵐山町人口ビジョン」及び「嵐山町総合戦略」を策定するものです。

人口ビジョン ～このままと、これからと～



●嵐山町の人口の現状

- ・嵐山町の人口は平成12（2000）年以降減少しています。年代別では年少人口及び生産年齢人口の減少が顕著となっています。
- ・人口減少の要因には自然増減と社会増減がありますが、嵐山町では自然減及び社会減の状態が続いています。
- ・自然減の状況としては、老年人口の増加を背景とした死亡数の増加、少子化を背景とした出生数の少なさにより、自然減の規模が広がりつつあります。
- ・社会減の状況としては、平成7（1995）年あたりまでは、就職・結婚・子育てというライフイベントに伴う転入超過がみられましたが、平成7（1995）年以降は逆に就職や結婚・出産を期に転出する傾向に変わっています。かねてより生じていた高校・大学進学期における転出超過と相まって、学齢期から若年層にかけての転出超過傾向が顕著となっています。

●将来人口の目標

嵐山町の平成72（2060）年の人口を12,260人とすることを目標とします。
国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の将来推計人口によると、嵐山町の平成72（2060）年の人口は、9,034人となってしまいます。

本計画では、財政面、福祉サービス等を勘案し、嵐山町の総合戦略の効果的な施行及び国の総合戦略による効果により、転入の増加及び転出の減少により2,600人の純増加を図り、合計特殊出生率を1.80とすることにより、平成72（2060）年の人口を12,260人とします。

●人口構成の区分

現在の国の年齢別人口区分は、0歳から14歳を年少人口、15歳から64歳を生産年齢人口、65歳以上を老年人口としています。

しかしながら、殆どの中学生は高校へ進学していることや65歳以上の方でも元気に働き続けています。更に、高齢者の健康寿命を延ばす政策を行うことにより、就労意欲のある高齢者の後押しを行ってまいります。

そのような現状から、今後人口区分を右記のとおり分類し、施策に活かしていきます。

0歳から19歳	年少人口
20歳から69歳	生産年齢人口
70歳以上	老年人口

総合戦略 ～これからの「嵐山町」へ～

●総合戦略の基本的方針

第5次嵐山町総合振興計画では、将来像を「豊かな自然 あふれる笑顔 心の通いあうまち らんざん」としています。そこには、『「まちづくり」は、誰のためのものでもなく、そこに住む人々のためのものです。住む人々が、暮らしやすく、希望の持てるまちにするため、そして幸せになるためのものです。それには、何よりも全ての人々が「私たちのまち」という自覚を持つことが必要です。』という基本的な考え方があります。

「まちづくり」の基本は、「ひとづくり」です。人口が減少する社会であっても、一人ひとりのポテンシャルを上げることができれば、豊かな社会を形成することができます。

これまでは、主に行政の施策がまちづくりの施策でした。しかしながら国が示すとおり、行政だけで人口減少を解消し、仕事をつくり、人の流れをつくるまちづくりを行うことは困難です。

総合戦略は、行政や町民・各種団体の力のみでなく、産業界、教育界、金融機関、マスコミ、労働機関といったあらゆる主体が力を合わせる必要があります。

平成72（2060）年の人口を12,260人とし、活力ある嵐山町をつくり続けるためには、総合振興計画の将来像を引き継ぎ、更に発展したもとなるよう下記のとおり総合戦略の基本的な方針を定めます。

3つの基本的方針

- | | |
|------------------|------------------------------|
| ① 活力と生きがいを創出する | 目標1. 雇用をつくる |
| | 目標2. 人の流れをつくる |
| ② 子どもたちの未来を創出する | 目標3. 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる |
| ③ 住みよい豊かな環境を創出する | 目標4. 住みよい環境をつくる |
| | 目標5. 地域の安全・安心をつくる |

I. 目指す嵐山町の姿

○45年後の嵐山町の町民が「ここに住んでいてやっぱり良かった」と「笑顔」でいえるまち

II. 人口の将来展望

- 平成72（2060）年の目標人口を12,260人とする。
(国立社会保障・人口問題研究所推計：9,034人 推計より約3,200人の人口増)
- 平成72（2060）年までに合計特殊出生率を1.80に上昇させる。

計画実現のために

総合戦略は、町民の方へのアンケートや関係団体との意見交換並びに産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・マスコミ・学識経験者及び公募の方からなる「嵐山町総合戦略策定委員会」による検討など、多くの方々の協力を得て策定することができました。

しかし、計画を着実に実行していくためには、嵐山町に関わる全ての皆さんと一緒に考えながら、地道で息の長い活動を行っていかねばなりません。その活動が、持続可能な住みよいまちづくりにつながっていきます。皆様のご協力をお願いいたします。

詳しい内容につきましては、ホームページをご覧ください。

問合せ 嵐山町役場地域支援課 TEL0493-62-2152
http://www.town.ranzan.saitama.jp/0000002685.html



ホームページ
QRコード

嵐山町総合戦略の概要 (平成27年度～平成31年度までの期間)

1 雇用をつくる

(1) 新たな産業と農業の活性化を図る

- ◆KPI*:市町村内総生産額
平成31年度発表 80,000 百万円
(平成26年度発表 73,001 百万円)

具体的な施策

- 新たな産業の「風」をおこす
①嵐山町版「地域おこし協力隊」の配置
②農業を中心とした産業の新たな展開

(2) 就労機会の充実を図る

- ◆KPI:嵐山町納税義務者数
平成31年度 8,000 人 (平成26年度 7,983 人)

具体的な施策

- 企業誘致による魅力的なまちづくり
- 既存企業との連携による共同事業の推進
- 潜在的な働き手の確保
①高齢者の就労の促進
②高齢者の助け合いの充実
③女性の就労支援

*KPI:重要業績評価指標 (Key Performance Indicator) の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

2 人の流れをつくる

(1) 「嵐山町(らんざんまち)」の知名度向上を図る

- ◆KPI:嵐山町公式ツイッターのフォロワー数
平成31年度末 2,000 人 (平成26年度末 226 人)

具体的な施策

- ICTを積極的に活用した知名度の向上
①ホームページ等インターネットやマスメディア等の積極的利活用
②観光地等におけるインターネット環境の整備
③「むさし嵐丸」の活用

(2) 嵐山町への定住人口の増加を図る

- ◆KPI:嵐山町の転入者数の増加
純移動数累計 140 人増加
(平成28年度から平成31年度まで)

具体的な施策

- 良好な住宅用地の確保
- 子育て世代の転入者の増加の推進
- 有効な空き家対策の推進

(3) 嵐山町への来客数の増加を図る

- ◆KPI:入込み観光客数の増加
平成31年度 350,000 人/年
(平成26年度 321,916 人/年)

具体的な施策

- 新たな地域活力創出拠点の整備
- 嵐山溪谷パークフィールド等の整備
- 新たな観光資源の活用
- 「武蔵嵐山」の再生

3 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる

(1) 結婚の機会拡大と妊娠・出産・子どもの健康の支援

- ◆KPI:出生数の増加
平成31年度 130 人 (平成25年度 95 人)

具体的な施策

- 結婚する機会の支援
- 妊娠・出産・子どもの健康に対する総合的な支援

(2) 未来志向の子育ての支援の充実

- ◆KPI:地域子育て支援センター数及び年間利用者数
平成31年度 2箇所 6,500 人/年
(平成26年度 1箇所 4,403 人/年)
- ◆KPI:つどいの広場年間利用者数
平成31年度 3,000 人/年 (平成26年度 2,870 人/年)
- ◆KPI:朝食を毎日食べる3歳児の割合
平成31年度 95% (平成26年度 80.7%)

具体的な施策

- 子育て支援情報の積極的な提供
- 子ども・子育て支援の充実
- 子育て世帯への経済的支援の充実
- 食育の推進

(3) 嵐山町の教育環境の充実

- ◆KPI:埼玉県が行う3つの達成目標における「学力」の達成率
平成31年度 98.0% (平成26年度 95.5%)
- ◆KPI:埼玉県が行う3つの達成目標における「新体力テスト」の県平均を上回る項目率
平成31年度 90.0% (平成26年度 80.0%)
- ◆KPI:埼玉県が行う3つの達成目標における「規律ある態度」を8割以上身に付けている生徒の割合
平成31年度 90.0% (平成26年度 80.0%)

具体的な施策

- 町立小中学校の学力の向上
- 特色ある教育の推進
- 学習の基礎となる国語力の向上
- 学校教育環境の改善
- 学校施設の改善

4 住みよい環境をつくる

(1) 武蔵嵐山駅周辺施設の充実

- ◆KPI:武蔵嵐山駅の乗降客数
平成31年度 10,000 人/日平均
(平成26年度 7,773 人/日平均)

具体的な施策

- 武蔵嵐山駅前施設の整備ときれいな駅の維持管理
- 駅周辺未利用地の活用

(2) 自然豊かな環境整備の推進

- ◆KPI:耕作放棄地面積
平成31年度末 116ha 維持 (平成26年度末 116ha)
- ◆KPI:主体的な道路維持管理団体数
(アダプトプログラム及び嵐山まもり隊数)
平成31年度末 22 団体 (平成26年度末 7 団体)
- ◆KPI:交通弱者に対するデマンドタクシー利用者数
平成31年度 450 人 (平成25年度 398 人)

具体的な施策

- 耕作放棄地の解消
- 自然豊かな里地里山環境の保全・管理
- 道路・橋りょうの適正な維持管理
- 上水道及び下水道の適正管理
- 交通弱者に対する支援

5 地域の安全・安心をつくる

(1) 安全・安心な公共施設の推進

- ◆KPI:公共施設等総合管理計画個別計画の策定
(平成31年度までに全施設策定)

具体的な施策

- 公共施設の維持管理と利活用

(2) 交通安全の推進

- ◆KPI:交通事故(人身事故)発生件数
平成31年度 65 件/年 (平成26年度 73 件/年)

具体的な施策

- 交通事故発生件数の減少への取り組み
- 幹線道路や生活道路の整備

(3) 防犯対策の充実

- ◆KPI:犯罪発生件数
平成31年 110 件/年 (平成26年 139 件/年)

具体的な施策

- 防犯対策意識の充実

(4) 防火・防災対策の充実

- ◆KPI:自主防災組織における防災訓練の実施数
平成31年度 10 回/年 (平成26年度 7 回/年)

具体的な施策

- 防火・防災対策への取り組み
- 個人住宅の耐震化の促進
- 高齢者のバリアフリーへの対応